

# 更生保護女性会を ご存じですか？



女性としての立場から、地域の犯罪防止および青少年の非行防止と、犯罪や非行をした人たちの更生に協力し、犯罪や非行のない明るい社会を実現しようとする女性ボランティア団体です。  
全国に約 18 万人の会員(埼玉県内には約 5,800 人)がいます。

## \* 吉川地区更生保護女性会とは…

この会は、昭和 53 年 6 月 3 日吉川地区更生保護婦人会として結成され、平成 17 年 5 月に吉川地区更生保護女性会と改称されました。現在会員 66 名で活動しています。

私たちは、法務省の機関であるさいたま保護観察所や保護司の方々と連携し、罪を犯した人や非行に走った少年が自ら反省し、地域の中で一人の社会人として生きていけるよう援助しています。

## \* こんな活動をしています

◇愛の募金運動 毎年 7 月法務省が主唱して行われる「社会を明るくする運動  
～犯罪や非行を防止し立ち直りを支える地域のチカラ～」強調月間中に行ないます。

◇更生保護施設への助成

◇愛の図書費 (毎年市内小学校・中学校に贈呈)

◇ミニ集会開催 地域の中で“井戸端会議”

◇新人研修・中堅研修および矯正施設研修

◇更生保護施設「清心寮(さいたま市)」訪問

◇子育て支援 毎月中央公民館にて子育て支援に協力。安心して子育てができるよう他の団体と連携しています。

◇広報紙「更女だより」発行

また良好解除者へ記念品贈呈や他の団体(青少年健全育成大会・市民まつり実行委員会・社会福祉協議会および暴力排除推進協議会等)へ参加協力しています。





# 更女だより

●吉川地区更生保護女性会 〒342-0054 吉川市吉川団地5-6-403 ☎048-982-7346

「社会を明るくする運動～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～」



ご協力ありがとうございました。

令和2年度 愛の募金総額 **873,000円**

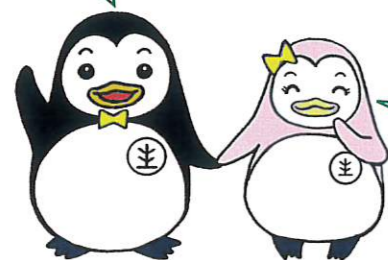
うち、25%は県更女連盟に納付されます。

市内の各自治会・事業主・有志のみな様からお預かりした貴重な募金は、その重みを感じながら今後の取り組みに有効活用をさせていただきます。

★主な使途 愛の図書費・清心寮、矯正施設への助成、啓発用品・会員研修・広報発行等

## 社会を明るくする運動ってなあに？

この運動は、すべての国民が、犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。特に、7月は「社会を明るくする運動」の強調月間となります。あなたの地域のイベントに参加してみてください。



更生ペンギンのホゴちゃんとサラちゃん

## 更生保護ってなあに？

犯罪や非行をした人の立ち直りを社会の中で見守り、地域のチカラで支えていくことです。



更生保護女性会員のオコジヨさん

## 吉川市の更生保護女性会は

私たちは「更生保護ボランティア」として毎年7月にその一環として「愛の募金活動」を行わせていただき、地域における犯罪予防の活動や子育て支援等の活動をしています。

昨年はコロナ禍の厳しい状況下での募金活動を展開致しましたが、地域の皆さまには温かく大きな心でご協力をいただきました。誠にありがとうございました。



令和2年度も市内の全小中学校へ「愛の図書費」贈呈に行きました  
(9.23～28) 三輪野江小学校 吉川中学校



吉川中学校

2011年3月11日

## 石巻市長様からのメッセージ

あの日 すべてが変わってしまいました  
「行ってきます」と出てきた家も 「いってらっしゃい」と見送り 見送ってくれた家族も 見慣れた景色も さっきまで働いていた職場も仲間もどれか一つ欠けても立ち直れないような出来事を一度にすべて失ってしまった人があの日はどれほどいたでしょう  
現状を知れば知るほど絶望と深い悲しみに暮れる私たちに 発災後すぐに 国や県 他市町村をはじめ 様々な企業・団体・個人の方々が 国内外から 沢山の手を差し伸べてくださいました  
こんなにも 私たちを想ってくれる温かい手があることを 私たちは震災を通して知ることができたのです  
その温かい手があったからこそ 今日私たちがいる 石巻市があります  
私たちは 差し伸べられた手を “決して忘れてはならない” そう心に刻み 生き残った者の使命として 後世へとこの震災を伝承し 手を差し伸べてくださった方々へ 感謝の心を忘れずに これからも歩んでまいります  
震災から10年 復興完結まであと一歩となりました  
10年目の区切りとして ここに石巻市民を代表して 心より感謝を申し上げます

令和3年3月 石巻市長 亀山 滋

どうぞ皆さん コロナが落ち着きましたら 石巻市にいらしてください  
皆様からのご支援を 目で見ても 肌で感じていただければ幸いです



## みまもり

多々良 孝子

ゲートキーパーという言葉は初めて聞きました。自殺へ傾いている人の心のSOSにいち早く気づき支え、命を守る門番ということです。先生の活動内容は電話、LINE、メールでの相談、街頭パトロール、声かけ、シェルターでの一時保護、同行支援等です。育った環境の中では、親からの愛情がとても大切だと思いました。講座を聞く機会があれば多くの人に聞いてもらいたい話の内容でした。

## ゲートキーパー養成講座に出席して

森 泉 美佐子

ステイホームできない少女たちの叫びとして、BONDが取り組んだ「聴く」「伝える」「繋げる」、活動発表、現状のいたましい事件の内容には驚くばかりでした。

人や公的機関に繋がられない、制度に辿り着けなく、行き場のない少女達のネットによる通信の悪用、そしてそこへ居場所を求めてしまう現状がある。マスコミで話題になった事件のお話には身近な問題とならない為にも、人との繋がりが大切であると実感しました。

この様な素晴らしい講演を受講させて頂きました事、決して無駄にしないように、若い人達に「明日があるよ!!」と声をかけてみます。

## 石巻から届いた礼状

前会長 野中 八重

3月上旬、宮城県石巻市役所から、2011.3.11東日本大震災の時の支援に対する礼状が届きました。10年前の「あの時」震災復興支援を目的として、映画「エクルールお菓子放浪記」の上映会を、吉川支部保護司会の共催で、中央公民館で開催しました。上映は大成功でした。映画の舞台が震災前の石巻市から始まったと聞き、収益金と募金をご協力いただいた方々の真心を合わせて、一日も早く被災者のもとに届けたい思いから、直接、石巻市役所に送らせて頂きました。  
あれから10年、被災された方々の復興活動はまだまだ続いています。風化させてはいけない「3・11」わが事として考えたいと思います。

## ゲートキーパー養成講座

令和3年1月28日(木)

## ステイホームできない少女たち

講師 特定非営利活動法人BONDプロジェクト  
代表 橘 ジュン氏

## プロフィール

2009年、10代20代の生きづらさを抱える少女を支えるため設立。虐待・家出・貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう少女に寄り添い、行き場がなく困っている少女のために街のパトロールや自主的に保護の活動をしている。TV、新聞などメディアにも多数紹介されている。

## 自分がいてもいい場所

加藤 満里子

若い女性が不満や不安を話す人が無く、SNSを利用して事件や事故に巻き込まれることが多いと事例を話して頂きました。事件や事故にならない入口で食い止めるプロジェクト、ゲートキーパーが必要だと思いました。

## 受賞 おめでとうございます

第70回社会を明るくする運動作文コンテスト  
埼玉県推進委員会委員長賞

小野寺 虎之介 (吉川小学校6年)

さいたま保護観察所長感謝状

馬 巻 恵子

埼玉県更生保護女性連盟会長表彰

森 泉 美佐子

飯 島 幸子





禍を転じて福となす お手玉作りで盛り上がる

会長 小野田 美智子

「令和2年度子育て支援地域活動」の県指定を受けるにあたり、2月の役員会で内容を検討しました。①毎年の子育て支援を充実させる②市内保育所との繋がりを考えてきっかけ作りをする③地域の中で寺子屋や子ども食堂等へ積極的に参加協力するとの3案をまとめました。

ところが、全国的に新型コロナウイルスの影響で、急遽①③は中止せざる負えなくなりました。再度役員会で話を重ね、特に保育所との繋がり方を検討しました。その結果、今の情勢でも無理のない範囲で会員が自宅でも取り組める“お手玉を作り、届けよう”となりました。そして、会員に協力を呼び掛けるための準備として、布地の提供、裁断、縫い手などの希望を取る、さらに、解説書入りの作り方を用意し、書面による承認の総会資料と共に郵送。その後の展開をご覧ください。

2020.7.11 愛の募金説明会を開く

この説明会の時間を使い、年度末までの取り組みであるお手玉作り説明をする。事前に取った各会員の参加形態アンケートにより、布地の提供・裁断・縫い手すべてを一人でこなす方も多くいて、頼もしい限りの発進。  
(中央公民館にて)



どの布がいいかな？



2020.7.26 愛の募金集計日には、自然なかたちで、お手玉の持ち寄りがあり約890個が集まってきました。  
(平沼公民館にて)



楽しかった～ 高安さん

大変でしたが楽しかったです 南さん

だんだん早くなりました 榎本さん

コツをつかむまでが大変でした 新屋敷さん

少しずつですが楽しいです 石塚さん

折り鶴模様の娘の着物でした 島田さん

460個頑張って作りました 中村さん

手先は得意ですが、楽しかった～ 賛助会員の互さん

段ボール箱の中は賛助会員の櫻井さんの手作りです。写真に映るお手玉は全部で430個です。

2020.10.4 1回目収集日。参加された会員さんには、普段お世話になっている「おあしす活動サポートセンターの企画」に協力して、折り鶴も折っていただきました。  
(平沼公民館にて)



子どものハチマキをほどこきました 山崎さん

1日5個ずつ作っています 地引さん

会員になって間もない二人ですが、何か役に立てばと参加しました 左岡崎さん・右矢嶋さん



提供した布がお手玉入れの袋に变身されているのを知り 感謝です 塩田さん



虫捕りを終えたお孫さんが途中から合流し、鶴も折ってくれました 大熊さん

この日だけで318個が集まり、中間合計2118個に。立派で丈夫な布の提供により、お手玉を入れる袋を作ることができました。



最終日、手伝えることはありますかと羽角さん

私たちが、ずっと 関わりました 右島崎さん 左加藤さん



総合計2889個!

2021.2.27 最終の集計日です。2600個以上になったお手玉は、70個入り25袋/50個入り15袋に詰め、その他手直し分を手分けして役員が持ち帰りました。  
(平沼公民館にて)



恥ずかしがり屋の知人Tさん、手元のみの出演で、1kg入りのベレットを20袋作り、お手玉の中にも詰めてもらいました。



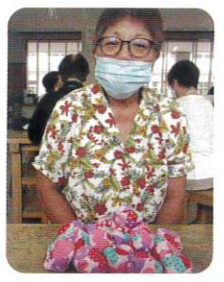
慣れたら楽しくなったのよ 廣瀬さん



初めて作りました 山崎さん



慣れるまでが大変でした 鈴木さん



友人に作ってもらいました 大竹さん

お手玉作りに取り組む活動を振り返ると、幾度となく指に針を刺した痛みよりも、出来上がっていくひとつひとつが愛おしく思っていて、増えていく数も楽しみになっていました。さらには、集ってくる会員さんの笑顔や、それぞれのエピソードなどにも触れて、これまでにない楽しく明るい空気が流れていた気がいたします。そして、驚くことは、会員さんのご友人や知人などの協力者が何人もいて、たくさんのお手玉を作り上げてくれました。次年度は、市内の保育園などの施設へお届けする活動が予定されています。